



おむつの処理方法検討

おむつの問題

インドネシアのごみ問題に関しては弊社グループのAAI並びにPT.AWINAが長年にわたって取り組んでいる課題である。

その中でも今回、おむつによる河川汚濁に関して弊社グループは課題解決に向けて取り組むことになった。日本でもおむつや生理用品は日々大量に発生しているが、日本は焼却炉施設が充実しているため、焼却処理されるが、インドネシアでは、焼却施設がないため埋め立て処理される。しかし、ごみ処理についての道德教育が行き届いていないため、河川へ投棄し、自然分解しないおむつは汚濁の原因となり、問題となる。

文化的側面

インドネシアのスラバヤ地方では、赤ちゃんが身に着けたもの、もしくは女性の生理用品のように肌に直接接触したものを燃やすとその部分が病気もしくは、やけどするといった迷信のようなものが存在する。

そのため焼却施設を設けて処理することは難しい。

炭化処理

炭化処理は焼却と違い炭化物を生成して行う工程である。そのため、おむつを燃やして灰にするわけではなく、おむつを炭化して炭化物は農作物の肥料もしくは吸水材として使用することが可能となる。弊社としてはおむつの炭化を行い、肥料として活用する方法を見出した。今後、深堀を行いさらなる活用法を模索する。



EFB事業

EFBの処理方法について検討を行っている。EFBの処理方法については、半炭化・乾燥といった機械的処理を検討していたが、酵素を用いた糖化処理を行った。結果としては、EFBに豊富に含まれるセルロースが反応し、糖化ができることを確認を行った。燃料化も含めて、糖化並びに酵素処理を含めて総合的な処理方法並びにEFBの6次産業化を推進していく。